

electro-harmonix

SOVTEK DELUXE BIG MUFF PI DISTORTION/SUSTAINER

この度はSovtek Deluxe Big Muff Piをお買い上げいただきありがとうございます。Sovtek Deluxe Big Muff Piは、愛すべきGreen Russian Big Muff Pi リイシューとBig Muffを強化したDeluxe Big Muff Piを掛けあわせて誕生したペダルです。たくましくも温かみのあるGreen Russian Big Muffのサウンドに、Deluxe Big Muffの様々な機能を追加しました。

主な特徴:

- ・ Big Muff伝統のノブ・レイアウト - 従来通りのサステイン、トーン、ボリュームのコントロール
- ・ MIDS EQ - 中心周波数の変更、レベルのブースト/カット、帯域幅の切替機能を備えたパラメトリックMIDS EQ
- ・ MIDS EQ 用フットスイッチ - フットスイッチでMIDS EQ 回路とバイパスの切替が可能
- ・ Gate - 不要なヒスノイズ、ハムノイズの除去
- ・ Blend - ドライ信号とディストーションをミックスできます
- ・ Wicker スイッチ - ハイエンドを持ち上げてアタック感を増幅
- ・ Expression Pedal Input - ペダルでMIDS EQの中心周波数をスムーズに切替可能
- ・ TRUE BYPASS

- コントロール -

VOLUMEノブ - ペダル全体のマスターボリュームを調節します。

BLENDノブ - ドライ音とディストーションサウンドのバランスを調節します。反時計回りいっぱいには回しきると100%ドライ、時計回りいっぱいには回しきると100%ウェットになります。12時の位置にするとドライ/ウェット半々の状態になります。

TONEノブ - トレブリーな音からディープな低音まで幅広いサウンドを作れます。時計回りに回すと、高音域が強調され低音域が減少します。

SUSTAINノブ - 従来のビッグマフ同様にサステインとディストーションのかかり具合を調節します。

WICKERスイッチ - Big Muff Pi with Tone Wickerに搭載されているスイッチと同じ機能です。ONにすると高周波数帯が開放されて、明るくクリアなトップエンドと明瞭なアタック音を得ることができます。OFFにすると元のサウンドに戻ります。

GATEノブ - 時計回りに回すとノイズゲートがかかり始める入力信号のスレッシュホールドが上が
り、スレッシュホールド値を上回る信号のみが出力されます。反時計回りいっぱい
に回しきるとノイズゲートがOFFになります。

MIDS LEVELノブ - MIDSがONの(左側のLEDが点灯している)時、下のMID FREQノブで設
定した周波数のレベルを最大で±10dBまでブースト/カットします。セン
ターポジション(12時方向)から時計回りに回すとブースト、反時計回りに
回すとカットします。センターポジションを把握しやすくするために、12時
付近にセンタークリックを設けています。センターにするとMID EQはフラ
ットになり、ブーストもカットもされません。MIDSがOFFの時は、このノブ
は機能しません。

MIDS FREQノブ - MIDS EQの中心周波数を310Hz～5.0kHzの間で設定します。中心周波
数を判別したいときは、①MIDS LEVELノブを3時以降に設定して、②
MIDSがONになっている(左側のLEDが点灯している)ことを確認し、③楽
器を弾きながらMIDS FREQノブを回します。MIDSがOFF(左側のLED
が消灯している)またはMIDS LEVELノブがセンターになっている時、こ
のノブは機能しません。

MIDS FREQノブは、外部のエクスペッション・ペダルやコントロールポ
ルテージ(CV)でも操作できます。外部デバイスは本体右側のEXPジャッ
クに接続できます。MIDS FREQノブの値が、エクスペッション・ペダル
やコントロールポルテージの最大値になります。エクスペッション・ペダ
ルのかかと側は、ノブを反時計回りに回しきったミニマムの状態と同じで
す。エクスペッション・ペダルについての詳細は、後述のEXPインプット
の項目をご参照ください。

MIDS Qスイッチ (HIGH/LOW) - MIDS EQのレゾナンスと帯域幅を切り替えます。LOWに
すると帯域幅が広がり、丸みを帯びて広々としたサウンド
になります。HIGHにすると帯域幅が狭まり、シャープでピ
ーキーなサウンドになります。

MIDSフットスイッチ/LED - MIDS EQ回路とバイパスの切替を行います。白いLEDが点灯し
ている時はMIDS EQ回路がアクティブになり、MIDS LEVELと
FREQのノブが有効になります。

BYPASSフットスイッチ/LED - エフェクト回路とトゥルーバイパスの切替を行います。赤い
LEDが点灯している時はエフェクトがアクティブになり、消灯
している時はトゥルーバイパスになります。

インプット/アウトプット、電源接続端子

INPUT - 楽器を接続するインプットです。インプット・インピーダンスはインプット・バッファがOFFの状態です。インプット・バッファON時は1MΩです。

OUTPUT - アンプや他のペダルを接続するアウトプットジャックです。アウトプット・インピーダンスは300Ωです。

EXPインプット - TRSケーブルを使用してエクスプレッション・ペダルを接続することで、MIDSの中心周波数をコントロールできます。また、TSケーブルを使用してコントロールボルテージ(CV)も使用できます。コントロールボルテージの許容範囲は0V~5Vです。エクスプレッション・ペダルの推奨モデルはEHX Expression Pedal、M-Audio® EX-P、Moog® EP-2、Roland® EV-5またはBoss® FV-500Lです。エクスプレッションペダルの極性は、Sleeveがかかと側、Ringがつま先側、Tipがワイパー部に接続される必要があります。エクスプレッション・ペダルの入力インピーダンスは通常10kΩですが、6k~100kΩまで対応します。MIDS EQ回路がバイパスされている時、エクスプレッション・ペダルは無効になります。

9V POWER - 本製品は、9V電池もしくは9V DC/50mA以上のアダプターで電源を供給する必要があります。electro-harmonix JP9.6DC-200アダプターを使用すれば、9.6V DCで最大200mAの電力供給が可能です。本製品が実際に消費する電力は9V DC/22mAで、センターマイナス極性のバレルタイプが対応しています。アダプター使用時は、9V電池は接続したままでも外しておいても問題ありません。

使用時の注意

電池交換

9V電池を交換する時は、本体底面の4つのネジを外して、底板を開けて交換してください。底板を外している間は、基板に触れないように注意してください。正常に動作しなくなる恐れがあります。

ノイズ対策

長いサステインを得るために、本製品は最大ゲインを非常に高く設定しています。そのため、サステインを上げた時に過剰なハムノイズが乗らないように、ピックアップやケーブルは正しくシールドで保護され適切にグラウンド接続されている必要があります。

インプット・バッファースイッチとトリムポット(本体内部)

本製品は、入力バッファを有効にするためのスライドスイッチを内部に備えています。バッファを有効にすると、BLENDノブで調節できるクリーンサウンドとディストーションサウンド両方のハイエンドが持ち上がります。スライドスイッチはInputジャック付近にあり、工場出荷時はバッファは無効の状態にセットされています。スイッチを切り替える際は、基板上の他の部分に触れないように注意してください。

MIDS EQ回路には、①HIGH Qの帯域幅②HIGH Qの出力ボリューム③MIDS EQ全体の出力ボリュームの3点を調節できるトリムポットを搭載しています。初期設定では、①非常にレゾナンスが高いが発振しない状態②LOW Qよりも少しだけ高い出力③MID EQをONにした時に全体のボリュームが少しだけ持ち上がる状態になっています。

初期設定は、あらゆるユーザーの理想通りではないかもしれませんが。トリムポットを調節したい時は、4つのネジを外して底板を開けてください。ノブ側を下にして、電源ジャックが自分の反対側にくるように持つと、プリント基板の左上に3つの小さいトリムポットが見つかるはずです。

トリムポットの設定を変える前に、いつでも最初の状態に戻せるように工場出荷時のポジションを写真かメモで記録しておくことをお勧めします。工場出荷時のポジションは個体ごとに異なるためです。

トリムポットを動かす際は、先端が2mm幅の小さなマイナスインプレーを使用してください。この際、基板上の他の部分に触れないように注意してください。

トリムポットのシグナルパスは下記の通りです。

HI Q AMT (TRIM1) → HI Q VOL (TRIM2) → MID EQ OUT VOL (TRIM3)

HI Q AMTを調節して帯域幅を変えると、HIGH Qモードのボリュームも変化します。HI Q AMTを上げるにつれてボリュームも上がり、反対にHI Q AMTを下げればボリュームも下がります。したがって、HI Q AMTを調節する時はHI Q VOLもそれに合わせて調節する必要があります。

LOW Qモードのボリュームを変えたい場合は、①LOW Qがイメージ通りのボリュームになるまでMID EQ OUT VOLを調節して、②HIGH QとLOW Qのボリュームを比べながら、必要に応じてHIGH Q VOLを調節してください。

————— 正規輸入代理店 —————

株式会社 キョーリツコーポレーション

〒468-0002

愛知県名古屋市天白区焼山1丁目813番地

E-MAIL: support@kyoritsu-group.co.jp